



2023年12月12日

日本鉄道労働組合連合会

## 宮城県名取市海岸林再生プロジェクト 約100haの海岸林再生を目指したボランティア活動に参加

名取海岸は、2011年の東日本大震災により防風林が消失する被害を受けた。潮風が直接内陸に吹き込むことで、農作物の不作や電柱・電線の漏電など、様々な不都合が生じることから、(公財)オイスカが「海岸林再生プロジェクト」を立ち上げ、地元やボランティアの協力を得ながらクロマツの苗づくりから植栽、保育・管理を行っており、これまでもJR連合やジェイアール・イーストユニオンがオイスカの活動に参画してきた。



育成中のクロマツ林

11月18日、ジェイアール・イーストユニオン仙台地本は、2023年最後のボランティア活動への参加を企画。JR連合も呼びかけに応じて合計18名で参加した。当日のボランティア参加者は、地元住民や企業・団体などを含め総勢80名を超える規模となった。

防風林として育成中のクロマツの土壌には水分が不要なため、当日の活動は、雨水を排水するための溝切り（鍬で土壌を掘り排水路を作成すること）を行ったほか、震災当時に海岸に流れ着いたまま放置されたゴミ収集などを行った。また、今後の取り組みとして間伐などにより育林をすすめ、海岸林が再生して機能するまでに40年程度の期間を計画していることを学んだ。



溝切り作業・ゴミ収集の様子

参加者は、力強く育つクロマツに逞しさを感じながら、海岸林がかつての姿を取り戻し、防風、防砂、防潮の機能を十分に持つようになるまで、継続的に活動を続けることを誓いあった。



育林の説明を受ける参加者